

豊岡鞆

豊岡には 1000 年以上遡ることのできる鞆づくりの歴史があり、今日でも日本の現在の鞆生産の 80%を担っています。この産業がこの地域で初めて勢いづいた時、豊岡は杞柳細工、つまり、保管や輸送に使われるアイテムを主とした柳細工の制作に焦点を置いていました。旅行ブームが日本に到来し、1800 年代後期に鉄道や橋、ホテルなどの近代的なインフラが建設されると、このような柳のケースは、バックルやハンドルが加えられ、旅行鞆となりました。豊岡鞆の起源は、3 本革バンド締め of 杞柳細工のバスケットケースにまで遡ることができ、これは 1881 年の第 2 回内国勸業博覧会で展示されました。ここから、豊岡の最初の鞆が小売市場に参入し、1917 年には、漆塗りで錠前を付けた杞柳細工のバスケットケースが販売されました。

大正（1912 年-1926 年）や昭和（1926 年-1945 年）の時代には、豊岡の鞆生産は、消費者の需要を満たすため、杞柳細工からさらに大規模生産品へと転換しました。この時に、豊岡は今日知られている鞆産業の中心地となったのです。時とともに、鞆は、プラスチック繊維や PVC などの新しい素材の使用など、人々のライフスタイルに合わせて現代化されました。今日に至るまで、豊岡は国内・国際ブランドの鞆の生産を続けています。

豊岡を訪れる人は、専門街カバンストリート（鞆通り）に出くわすことでしょう。ここでは、数多くの地元の鞆会社が小売店を構えています。カスタムバッグから修理まであらゆることを専門としている地元の鞆企業が提供するものをずっと見て回るには最高の場所です。注目に値するある地方ブランドが豊岡鞆で、これは兵庫県鞆工業組合の登録商標となっています。この組合に加盟するそれぞれの企業は自社の生産ラインで鞆を生産し、厳しい検査をクリアしてこの地方の高級品として認定を受けた後でのみ、豊岡鞆のラベルを使って販売することができます。その並外れた品質と機能的なデザインで高い評価を受ける豊岡鞆は、革からキャンバス生地に至るまでの素材を用いて、様々な用途の鞆を作っています。これらの鞆は、豊岡でスキルを磨いた職人によって、地元で生産されています。その人気と耐久性により、豊岡鞆の製品は現在、日本中のお店やデパートで購入することができます。